

「荒尾市デジタルトランスフォーメーション(DX)推進計画(素案)」に対するパブリックコメントの結果と対応方針

【実施期間】 令和3年12月13日～令和4年1月12日

【実施場所】 荒尾市役所庁舎内:(1階)総合案内 (2階)産業振興課、情報公開コーナー

荒尾市役所庁舎外:市民サービスセンター、メディア交流館、小岱工芸館、みどり蒼生館、万田炭鉱館、荒尾総合文化センター、市立図書館、荒尾市HP

【実施結果】 いただいたご意見:16件(2人)

| | | ご意見の内容 | ご意見に対する市の考え方 |
|---|-----|---|---|
| 1 | P.4 | <p>荒尾市 DX の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下部脚注内AIの説明が人口知能になっている。 ・下部脚注内IoTの説明が、説明の体をなしていない。「モノのインターネット」とは具体的にどういった概念なのかを説明すべきではないか。 | <p>修正するとともに補足追記いたします。</p> <p>→(1)荒尾市DXの目的に記載</p> |
| 2 | P.4 | <p>荒尾市 DX の目的</p> <p>本構想は市役所目線からの発想で有り、DXに求められている「利用者のニーズから出発し、事実を明確に把握する利用者の日常体験に溶け込み、サービスを作る」と言った発想やプロセスが極めて貧弱である。</p> <p>また、利用者中心の行政サービスに立ち返った自己の組織全体の業務改革BPR(Business Process Re-engineering)に取り組むことについての記載がない。</p> | <p>ご意見のとおり、まずは利用者のニーズから出発することが重要だと考えます。P5「(2)荒尾市のDXとは」では、効果的なデジタル活用を進めるための取組イメージを図3で図示していますが、まさに市民ニーズや地域課題から出発することとしています。</p> <p>また、組織全体の業務改革は行政のDX推進に必要不可欠だと考えます。本市の経営理念である現場主義を徹底しながら、業務改革に取り組んでまいります。なお、「BPR」という文言は使用していませんが、「業務改革」についての取り組みは P14、P20、P21、P22に記載しています。</p> |
| 3 | P.6 | <p>計画の必要性</p> <p>COVIDによって生じた世界共通の課題の一つは、従来対面式で行っていた教育(学校教育及び生涯学習などの社会教育等)をどうするか、という問題であった。荒尾市長の年頭のご挨拶でも、教育の重要性について言及がなされた。市外への人口流出の要因の一つは、荒尾市の各世代を取り巻く教育環境の比較劣位にあると感じて</p> | <p>教育施策は、本市においても重要な施策であることは間違いありません。「暮らしのDX」は、市民生活全般について取り組んでいくものですので、「教育DX」については、「暮らしのDX」に含まれるものです。また、現在策定中の第2期荒尾市教育振興基本計画では基盤となる考え方の1つとして、「教育DXの加速化」を定め、施策を展開する方向性に位置付けています。</p> |

| | | | |
|---|------|---|--|
| | | <p>いる。教育の改善は荒尾市の持続性における重要な政策課題であり、様々な政策において機会をとらえて意図的に言及すべきである。</p> | |
| 4 | P.9 | <p>計画の期間 市総合計画は、R8年度以降も次期総合計画が表示・示唆されているにもかかわらず、市のDX推進計画は本計画で終わりのような表記になっている。DXに関する国の上位計画がどうなるのか、市のDX推進計画は市の総合計画に内包されるのか、別計画として継続されるのかなどは現時点では不明確だとは思うが、「次期DX関連計画」のような形で事業の継続性を明記すべきではないか。DXは新規創造と継続改善が継続的に続くものであり、終わりがあのような性格の政策ではない。</p> | <p>本計画は、第6次荒尾市総合計画をDXで下支えするものとして策定します。ですので、第6次荒尾市総合計画の終期と合わせて、令和7年度を1区切りとして成果を出すよう努めていきます。ただし、DXの取組はそれ以降も継続していくべきものだと考えますので、それ以降も引き続き推進していきます。</p> |
| 5 | P.10 | <p>目指すべき姿 イメージ図が不鮮明であり、文字もイラストと重なっており、見づらいつと感じた。また、行政のDXと産業のDXは時に別個、時に相互作用的なものであり、上下階層に示す意図が不明である。例えばP.11の基本戦略の図のように、分野別個の部分と相互作用的部分が存在するような図のほうが、政策との連携もわかりやすく、認識がしやすいのではないかと。同一文書内で使用する概念的な図や表は、一定の整合性をもってイラスト化したほうが一貫性も増し、理解もしやすいように感じる。</p> | <p>図6については、DXをより身近に、理解しやすいよう、荒尾市DXで目指す将来像のイメージ図を変更します。 →第2章 1. 目指すべき姿 図6を修正記載</p> |
| 6 | P.11 | <p>基本戦略 前述の通り、教育のDXはCOVIDで顕在化した社会的課題であり、これはCOVID後も一定の潮流となることが見積もられている。幼児教育は市子育て支援課、義務教育は市教育委員会、高校教育は県</p> | <p>教育施策は、本市においても重要な施策であることは間違いありません。「暮らしのDX」は、市民生活全般について取り組んでいくものですので、「教育DX」については、「暮らしのDX」に含まれるものです。また、現在策定中の第2期荒尾市教育振興基本計画では基盤とな</p> |

| | | | |
|---|------|---|--|
| | | <p>教育委員会、社会人以上の生涯教育は市生涯学習課と主管が異なることは承知しているが、これは将来の荒尾市の全世代の教育機会や質に関わる問題である。荒尾市に在住する各世代の特性を考慮した教育のDXを推進する必要性について、一つの柱として扱うべきではないか。</p> <p>P.6 では市外から荒尾市政への注目があることも触れられており、「教育のDX」を明確に打ち出すことには、教育への積極的な市の姿勢を市内外(特に子育て世代)に示すこともできるのではないか。</p> | <p>る考え方の1つとして、「教育DXの加速化」を定め、施策を展開する方向性に位置付けています。</p> |
| 7 | P.17 | <p>施策の体系 教育のDXに関連すると思われる項目を、図の例に即して列挙する。 <教育のDX> 推進キーワード:「教育へのアクセス向上」、「教育の質の向上」 1ICTリテラシー及び荒尾市DX施策に関する教育・普及 2在宅やサテライト会場での各世代への教育機会の提供・環境整備 3市内教育機関と国内外教育機関・企業等との交流・連携推進 4一時的・常続的に通学が困難な学生への教育機会の提供 (上記は一例に過ぎず、教育は柱として十分成立する項目と認識)</p> | <p>教育施策は、本市においても重要な施策であることは間違いありません。「暮らしのDX」は、市民生活全般について取り組んでいくものですので、「教育DX」については、「暮らしのDX」に含まれるものです。また、現在策定中の第2期荒尾市教育振興基本計画では基盤となる考え方の1つとして、「教育DXの加速化」を定め、施策を展開する方向性に位置付けています。</p> |
| 8 | P.17 | <p>施策の体系 いろいろな取り組みが各地でなされており、また、どんなソリューションやソフト会社を選ぶかによっても、方向性が決まるので事前検討が必要と思われる。</p> <p>荒尾市では、大風呂敷を広げるのではなく、利用者のニーズから出発し、事実を明確に把握してから、市民に構想を出すべきではないか。本構想では、何をしようとしているのかさっぱり分からない。そこで荒尾市は「このようなプロトタイプから展開」と明確に打ち出すべきである。本構想は市民目線からの発想は極めて貧弱であ</p> | <p>本市のDXは、本市の地域課題や市民ニーズを解決するためのソリューションやソフトを検討していきます。まずはそういった方向性を示すためのものが本計画であり、本計画に沿って、各自治体のさまざまな取り組みを参考に、DXを推進していきたいと考えます。</p> <p>市民ニーズや地域課題から出発するということは、P.5 の図3DXの好循環イメージに示した通りです。</p> |

| | | | |
|----|------|---|---|
| | | る。構想は、初めから市民目線で見直すべきである。 | |
| 9 | P.20 | <p>人材育成</p> <p>DXはやったら終わりではない。変化する環境に応じた展開が必要で有り、いかにして人材(技術者)を育てるかも一切記述がない。DXが始まると一番最初めに抵抗するのが、職員の皆さんと言われている。忙しさはあっても、現在のままで特に大きな問題はないからだ。BPRを進めるに当たって、「出来る理由よりも、出来ない理由を除くこと」が重要と言える。職員が納得しなければ、一部の職員の負担ばかり残り、ろくなDXにならない。</p> | <p>日々進歩するデジタル技術の中で、DXを推進していく人材の育成が大変重要であることは、認識しております。外部の専門的人材活用も検討しながら、職員の人材育成にも努めていきます。</p> <p>なお、「人材育成」については P16、P20、P22、P24に記載しています。</p> |
| 10 | P.20 | <p>人材育成</p> <p>行政サービスの向上と業務の効率化はセットとなっていて、業務の効率化によりより職員の負担が軽減されることを、職員に理解してもらう事が必要ではないか</p> <p>また、世代交代や外部人材(デジタル技術の能力を持つスペシャリストとDXプランを企画立案出来るプランナーの2種類の人材)の登用により人材の新陳代謝を計る必要がある</p> | <p>業務の効率化により職員の負担軽減が図られることを理解してもらうことは重要だと考えます。それを理解した上で、軽減した資源(人員や時間)をどう市民サービスに還元していくのかということについては、行政経営計画に示すとおりです。</p> <p>外部人材の活用等については、今後検討してまいります。</p> |
| 11 | P.23 | <p>推進体制と進捗管理</p> <p>DX推進は新たな技術や知識を用いて既存の行政の在り方を変革するものであり、専門的な教育を通じた知識の習得、市民のニーズと関連技術の関係性の把握、市政の構想づくりや政策の具現化には多大な労力を要する。役職兼務のようなワーキンググループ方式ではなく、DX推進企画課(仮)のような専従チームを副市長の下に設</p> | <p>DXの推進は様々なサービス分野で、分野ごとに取り組むのではなく、分野横断的により便利で快適なサービスに変革する必要があります。現在、主なデジタル化施策についての推進組織は文化企画課であり、本計画においても引き続きその役を同課が務めることとしています。</p> |

| | | | |
|----|------|--|---|
| | | <p>置き、他部局との意見交換を踏まえた上で、市のDX構想や各部局の政策の大方針を作成し、施策の実行の監督や評価・改善を継続的に実施すべきではないか。</p> | |
| 12 | P.23 | <p>推進体制と進捗管理 縦割りの組織だと、各部署が同時に共有して行わないといけないBRPが出来なくなり、本格的なDXを押し進める事は困難になると強くいわれているため、作業を共有する横割り体制を築く必要がある。</p> | <p>3つの基本戦略は、重複する部分や互いに影響する部分も多いことから、まずDXアクションプランの策定や推進にあたっては、組織横断的なワーキングチームを進めることとしています。</p> |
| 13 | P.23 | <p>推進体制と進捗管理 横割りの頂点(CIO)には、DXに精通した庁内職員若しくはデジタル技術の能力を有するスペシャリストおよび企画立案できるプランナーをトップに据えるべき。 また、CIOの説明で脚注7に「市長の思いを汲み」とある。市長の思いを否定するものではないが、DXでやることは市民への「利用者中心の行政サービス」向上が第一義なのではないか。この文章は削除しても良いのではないか。</p> | <p>DXの推進には様々な知識が必要だと思いますが、意思決定をするトップはあくまで経営層であるべきだと考えます。また、組織横断的に強力に推進していくためには、部門を超えたマネジメント能力を発揮できる職が適任だと考えます。 なお、脚注7については、文言修正いたします。 →第4章 2. 進捗管理 文言修正</p> |
| 14 | P.23 | <p>推進体制と進捗管理 図9には最も市民との接触が深い部の一つとして、保健福祉部があるが、この中のどの課が入っているか分からない。代表課だけではなく、詳細を公表すべきである。 また、南新地には保福子施設が入るが、ここのDX展開はするのかの具体的記載が無い。 また、医療のDXも具体的に展開すべきではないか。せっかく新しい施設が出来るので、DXの取り組みはやりやすいのではないか。</p> | <p>本計画は、保健福祉分野や医療分野にかかわらず、市の行政業務など市政全般に取り組んでいきます。</p> |

| | | | |
|----|------|--|---|
| 15 | P.23 | <p>推進体制と進捗管理</p> <p>横断的な推進組織で構成される各部署合同のワーキンググループを立ち上げる組織体制にする必要があるのではないか。部課長は出ても、オブザーバー参加で十分である。妙な口出しをするファシリテーターは不要である。若者がiPhoneを初め、デジタル技術を使いこなすのは上手である。</p> | <p>3つの基本戦略は、重複する部分や互いに影響する部分も多いことから、まずDXアクションプランの策定や推進にあたっては、組織横断的なワーキングチームを進めることとしています。代表課は、こういったワーキングチームから出た意見集約や組織間の調整等の役割を担うこととしています。</p> |
| 16 | — | <p>全般事項</p> <p>まずは、後で変更可能な柔軟性のあるプロトタイプを作るべきではないか。スモールスタート(事業を小さい規模で活動する事)も必要であろう。成功すれば、次々に展開しておけば良いのではないか。まず全体の30%程度から進めたらどうか。利用者のニーズから出発し、事実を明確に把握する事から始めよう。</p> <p>従来とほぼ同じ活動(業務内容)について効率を追求する「改善型DX」から初めて、従来とは全く異なるやり方を模索する「戦略的DX」に展開したらどうか。</p> | <p>DXの推進は、改善型から始め戦略型に展開するのではなく、改善できるものは改善型で進め、戦略的に進めるものは戦略的に進めることが重要だと考えます。現場主義を徹底し、市民ニーズや地域課題解決のため、P.16の重点指針に沿って進めてまいります。</p> |